

# ヒューマンライツノート

観中央人権・同和教育だよりNo. 44

\*\*\*\*\* 2007年12月 21日 (金)

## 「世界中の人達が心から笑えるようになる日まで」 古今亭菊千代師匠

幼いころから「よくとんちの利く子」。おもしろいことを言っただけで、まわりの大人を笑わせるの好き。でも、目立ちたいけど、目立ってない内弁慶。ふとしたことをきっかけに落語と出会い、落語家の世界へ。しかし、立ち上がる大きな壁。自分を信じ、自分の夢に真正面から立ち向かい、荒波を乗り越え、史上初の女性真打ちに昇進。そんな経験をしてこられた古今亭菊千代さんが、12月7日に「世界中の人達が心から笑えるようになる日まで」という題で、私たちに様々な体験談を含めて講演をしてくださいました。そのときの生徒皆さんの感想を紹介します。



### ■ どんな話や言葉が印象に残りましたか。

- これまでの多くの経験があるからこそ、今の自分がある。
- 他人を理解することはできないけれど、そばにいてあげることができる。
- わかってあげるんじゃなく、理解してあげるだけでいい。
- 何事も前向きに考えて、自分を大切に思って生きていけば他人や物も大切にできる。
- 引き出し（レパートリー）を多く持っていたら、その場の雰囲気に合わせて何事も取り組める。
- 何事もやってみなくては分からない。
- 絶対に叶えたいと思うことは絶対に叶えられる。もし叶わなかったら、それは自分が本当に叶えたいと思っていないのではないのか。他の道を切り捨ててでもその道を選ぼうとしなければ得られないこともある。
- 「好きなこと」を逃げ道にしない。いいわけにしない。
- 人間前向きに生きていたら、人生は明るくなる。
- ハチドリの話。「私一人でも～すれば」
- 平和じゃないと落語はできない。

### ■ 講演を聞いて感じたことや考えたこと。

- 人を笑わせる職業というものは本当に素晴らしいと思う。何か不意をつかれたような小さな笑いが好きだ。
- 扇子と手ぬぐいだけで人を笑わせる落語にますます興味を持った。
- 僕にとって落語は心も体もいやされるとてもいいものだと感じた。機会があればまたぜひ聞きたい。
- 「勉強もできず、才能もなく。」とおっしゃっていたけれど、話下手の私にはとても輝いて見えた。夢を追い続けることの大切さを改めて感じた。
- 菊千代さんは明るく笑顔が素敵な方だったので、聞いていて元気が出た。
- 自信を持って進み続けた菊千代さんの話をきいて、なんだか少し自信がついた気がする。
- 人は同情したがるし偽善者になりたがるけど、人それぞれ感じ方は違うから、それを認め理解してあげることが大切だと感じた。
- 今日の話は素直に聞けて、自分もこうしようか、これだったら自分にもできるかなと感じた。これからは誰かに不満を持たずに過ごせるように思う。
- 私は運の悪いことを自慢するくらい、自分で運が悪いと思っていた。しかし、運が悪いのは自分がそう思っているだけで、考え方を変えれば運もよくなるのだと思った。これからは、プラス思考でいこうと思う。
- 下積みをして苦労してきたからこそ、こんな輝いた未来が待っているのだと思った。
- 今の私は幸せなのだ分かった。ご飯も食べられるし、学べるし、手足もある。「生きられる環境」にいる。一日一日を大切に、努力をおしまず、生きていこうと思う。
- 私の師と呼べる人は後天的に目が見えない。しかし、私たちに剣道を教えてくれ尊敬している。その人がここにいて、私もここにいる。この空気のあるえ、心のあるえのようなものが伝わることもある。今日の講演を聞いてこれでいいのだと感じた。
- 私はずっと夢を持ち続けていて、春から、男ばかりの世界に入る。本当に厳しい世界で涙することも嫌になることもあると思う。しかし、「この世界が好き！」という気持ちを大事にずっと持ち続けなければ頑張っていけるのだと改めて思った。女だからといって負けない強さを持ちたい。

菊千代さんの講演は皆さんにさまざまな感動をくれたようです。テレビを通してではなく、生の声で聞いた落語は、落語本来のおもしろさはもちろん、迫力、さらには菊千代さんのさまざまな考え、思いが伝わってきたように思います。この講演で感じた感動はこれからの生活のあらゆる場面で、私たちを支え、また応援してくれることでしょう。

## 知っていますか？ 人権標語ツリー

人権週間に応募した人権標語を美術部と新聞部の皆さんに協力してもらってクリスマスツリーに飾りました。本館1階北出口付近にあります。ご応募ありがとうございました。

